

090 「価値観」

My courtiers called me the Happy Prince, and happy indeed I was, if pleasure be happiness. So I lived, and so I died. And now that I am dead they have set me up here so high that I can see all the ugliness and all the misery of my city.

廷臣たちはわたしを幸福な王子と呼んだし、わたしもじっさい幸福だったのだ、もし快樂が幸福であるとしたらね。そんなふうには生き、そんなふうには死んだ。ところが死んでしまうと、みんなはわたしをこんな高いところに立てたものだから、わたしの町の醜さとみじめさがすっかり見えてしまうのだ。

(西村孝次訳『幸福の王子』新潮文庫)

〔出典〕

(*The Happy Prince* by Oscar Wilde)

〔英語の解説〕

happy indeed I was→I was indeed happy 倒置。pleasure 「快樂」、so...that～「とても...なので～」、ugliness 「醜さ」、misery 「みじめさ」

〔内容の鑑賞〕

視点が変わると、いろいろ見えてくるものがある。上からみる景色は等身大とは異なる。展望台から見る景色もいつもとは違って見えてくる。都会も道をおあるいていると、人が多くてごみごみしているが、高層ビルの上からみる都会は案外きれいにみえる。